ちほの
おしゃべりタイム

# 航空宇宙のきぼう

オフィスPrima 代表
フリーアナウンサー
ビジネスマナー講師
透（とおる） 千保（ちほ）

東海地方の各放送局（岐阜放送/ぎふチャン、FM GIFU、東海ラジオ、メ～テレなど）で数多くの番組やニュースを担当。司会、ナレーションの他、名鉄電車、名古屋市営地下鉄など、公共交通機関のアナウンス放送に携わる。
一方、企業・大学において、ビジネスマナー、電話応対などの研修講師を務め、人財育成に取り組んでいる。

岐阜県を含む中部地域は、今後の成長が期待される航空宇宙産業が盛んな地域として知られています。今年４月、岐阜大学構内に、「航空宇宙生産技術開発センター」が開所しました。岐阜県の産学金官が連携し、航空機の生産技術に関する人材育成や研究開発を行う施設です。岐阜大学と名古屋大学を運営する東海国立大学機構が、国や県の支援を受けて設置したもので、生産技術に焦点を当てた国内初の教育研究機関となっています。

センターの方にお話を伺うと、航空機の部品は高品質で多品種少量生産のため、多くの熟練した技術者が必要であり、国際競争の中で生き残るには生産性の向上が求められるとか。ここでは、航空機の生産を担う工作ロボットの開発や、飛行機の設計から組み立てまでの手順を学べるようになっています。ロボットの精密な動きは、見ていると感動を覚えるほどでした。また、地域航空宇宙産業に携わる企業との共同研究開発も行われます。

時を同じくして、日本人宇宙飛行士の野口聡一さんと星出彰彦さんが、任務を交代したというニュースがありました。日本の実験棟「きぼう」の前でたすきを交換し、国際宇宙ステーション（ISS）から2人が笑顔で語りかける映像は、まるですぐそこでの出来事のような臨場感がありました。

野口さんは、約半年間に渡る業務の間を縫って、YouTubeでナマの宇宙暮らしの様子を送り続けました。「朝のルーティン」「カレー対決」「うちゅうにでてみたよ」など、どれも興味深く生活感にあふれており、宇宙を身近に感じさせてくれました。その最終回は、沈みゆく満月の映像に合わせてショパンの「別れの曲」をキーボードで演奏し、心に残るシーンでした。

そして野口さんは、このように語っています。「地球は美しい。新型コロナウィルスで今人類が大変な危機にさらされていますが、地球は長い歴史を持って、この危機も乗り越えられると教えてくれているような気がします。この困難を一緒に乗り越えて、我々の宇宙船と同じ様にレジリエンス＝立ち直る力を発揮して明るい未来を作っていきましょう。」

多くの年月を費やして、巨大な宇宙ステーションを建設するなど偉業を成し遂げてきた人間の力。そこには、日本の技術力の高さや人間性の素晴らしさも貢献していることを誇りに思います。冒頭の「航空宇宙生産技術開発センター」も、人材育成や研究開発が、やがては地方創生につながるという長期的なビジョンを描いているそうです。今後、航空宇宙産業に関わる新たな人材が輩出されることを期待しています。

宇宙から見れば、今地上で起きている様々な問題も、やがて歴史の一場面となるのでしょうか。時には、広い視野に立つことも必要だと考えさせられました。